新修 舞鶴市史 編さんだより

第１号
発行日／令和6年8月1日

舞鶴市市制施行80周年（令和5年）を記念して、市史編さんに取り組んでいます。新たな「新修・舞鶴市史」編さん事業は、昭和の終わりから平成、そして令和へと激動する社会における舞鶴の姿を記録にとどめ、次代に継承する取り組みでもあります。

この「新修・舞鶴市史編さんだより」では、編さん事業について、市民の皆さんと共有するため、調査の様子や新たに分かったこと、歴史のひとコマなど、様々な市史情報をお届けします。

新修・舞鶴市史の編さんがはじまりました

舞鶴市市史編さん委員会　委員長
京都府立大学文学部教授　東（ひがし）　昇（のぼる）

今回（第２次）の市史編さんの前身である第１次舞鶴市史編さんは、市制施行30周年を記念して企画されました。編さん活動を記した『舞鶴市史編纂だより』第１号が、昭和47年（一九七二）４月に刊行されていますので、『編さんだより』も実に半世紀ぶりとなります。当時の『舞鶴市史編纂だより』には、編さん委員会における検討内容も記され、昭和46年7月の第２回委員会では、「委員即執筆者であること」、「郷土史は郷土史家の手で」、「まず史料篇をさきに出そう」という議論・決意が記されています。自分たちの歴史を自分たちの手で、歴史の基礎である史料篇を先に出していくなど、自治体史編さん、歴史を明らかにしていく上で大事なことであり、実際に実行されました。

私は、大洲市（愛媛県）出身で舞鶴出身ではありません。しかし、舞鶴の歴史を調査・研究して11年目になり、地元に根ざしたとはいえませんが、舞鶴関係者として足元あたりに近づいたかと思っています。高校時代の恩師である日本史の先生に導かれて以来、現在まで地元大洲の歴史・調査研究も30年ほど続けていますが、舞鶴では、これまで京都府立大学の地域貢献型特別研究（ＡＣＴＲ）で、東舞鶴高校の生徒のみなさんと舞鶴の歴史を調べ学んできました。市史編さんが、地域に住む人々、特にこれからの時代を担う小中高校生の若い人たちにとって、ともに歩む存在でありたいと考えています。

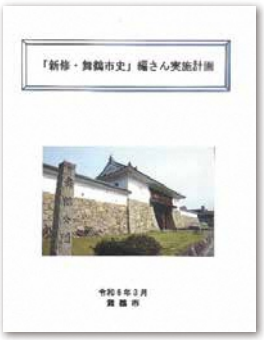
今回の第２次舞鶴市史編さん事業は、どのように進められるのでしょうか。この編さんだよりに掲載されている、市史編さん実施計画やそれを推進していく編さん委員会等の体制、市民ボランティア活動の紹介などをご覧ください。

地元の歴史とは、そこに住む、関係する人々が、協力して調べ学び、暮らしていくなかで核になる、活かしていくことができるものだと確信しています。そして、これまで引き継がれてきた先人の資料、自分たちの記録や記憶を後世の舞鶴市民のために遺していきましょう。市民の皆さまのご協力、積極的な参加をよろしくお願いします。

新修・舞鶴市史編さん実施計画のあらまし

1 編さん趣旨

舞鶴市の歴史について、縄文時代から現代までの発展過程を正しく理解し、歴史的な資料を適切に整理・保存して、後世に継承することによって、市の発展と市民の郷土愛の醸成に役立てるとともに、未来に希望が持てる活力のあるまちの展望につなげるものです。



2 背景

既刊の舞鶴市史は、昭和48年（一九七三）に「史料編」を発刊し、平成６年に「年表編」を発刊するまで、23年間を要して全７巻を刊行しています。（第１次編さん事業）

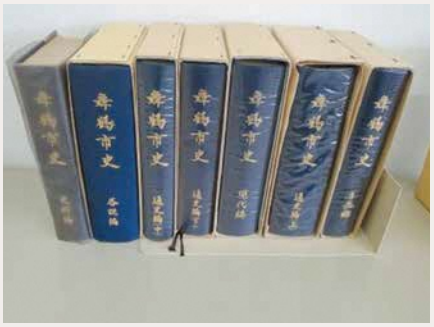
その後、今日まで約30年が経過するなか、令和５年、市制施行80周年記念事業の一環として、改めて市史編さんに取り組み、本市が歩んできた歴史を的確に未来に継承していこうとするものです。（第２次編さん事業）

3 既刊市史　全７巻

既刊市史７巻は、内容のクオリティが高いと評価されていますので、引き続き活用します。

既刊市史は、東・西図書館や郷土資料館で読むことができるほか、市役所１階の市政情報公開コーナーと舞鶴西総合会館１階の郷土資料館で頒布しています。

《既刊市史　全７巻》



- **通史編（上）原始･古代～近世**　頒価 7,000円
- **通史編（中）明治期～一部大正期**　頒価 3,500円
- **通史編（下）大正期～昭和20年**　頒価 4,000円
- **現代編 昭和20年～50年代**　頒価 6,000円
- **各説編 市の概要**　頒価 3,500円
- **年表編 縄文～平成4年**　頒価 6,000円
- **史料編 丹後国加佐郡旧語集等**　在庫無し

4 新修・舞鶴市史の編さん内容

市民の皆さんに読んでいただけるよう、学術的に高い水準を維持しながら、平易な文章での記述や写真・図画等の多様な表現手法を用いて、より理解しやすい市史を目指します。

また、電子化を図り、記録メディアやインターネットなどで有効活用できるよう、使い勝手の良いものにします。

(1) 通史編

本市の歴史を通史的に記述する通史編は、既刊市史で原始・古代・中世・近世・近代（太平洋戦争終結まで）を（上）・（中）・（下）の３巻で扱い、戦後の歴史については「現代編」で扱っています。

①「平成の舞鶴」（昭和50年代後半～令和初期）

既刊市史「現代編」は、昭和50年代までとなっています。このため、行政文書等を中心に調査を行い、関係機関の協力を得ながら歴史的経過を新たに「平成の舞鶴」として編さんします。

②「舞鶴の歴史（概要版）」（縄文～令和初期）

既刊市史を活用し、縄文時代から現在までを写真や図表などを用いて分かりやすく解説するダイジェスト版を編さんします。

(2) 分野編

本市のまちづくりに大きな影響を及ぼした史実等については、それら内容の充実と利用便宜の向上を図るため、分野編として、それぞれ編さんします。

①「城と城下町」

安土桃山時代、細川幽斎は西地区に田辺城を築き、同時に伊佐津川を瀬替するなど城下町をつくり、江戸時代には、京極氏、牧野氏がさらに発展させました。

②「旧軍港」

明治34年に鎮守府が設置され、東地区の都市基盤整備が進められました。その後、昭和25年に旧軍港市転換法が制定され、旧軍用財産が公共施設や産業施設等に転活用され発展してきました。

③「引揚港」

舞鶴港は、第二次世界大戦終結後、引揚港として13ケ年にわたり、66万人余の引揚者を迎え入れた歴史があります。引揚記念館所蔵資料は、平成27年にユネスコ世界記憶遺産に登録され、「引き揚げ」は平和発信と合わせて継承すべき重要な史実です。

(3) 資料編

既刊市史に掲載されている資(史)料を活用しつつ、その後に判明した新たな史実や悉皆調査の成果等については、資料目録を作成したうえで、既刊市史の記述内容の更新や補完を行って、新たに史料写真・翻刻文・解説文からなる資料編を編さんします。

①「考古・古代・中世」　②「近世」　③「近代」

④「文化遺産」（自然・地質、建造物、美術工芸、民俗、地図・絵地図の５部門）

5 市史の刊行計画

(1) 編さん期間

令和５年度から令和14年度までの10年間とします。

(2) 年次計画

刊行計画は次のとおりです。

通史編	平成の舞鶴	令和10年度刊行
	舞鶴の歴史（概要版）	令和14年度刊行
分野編	城と城下町	令和11年度刊行
	旧軍港	令和12年度刊行
	引揚港	令和８年度刊行
資料編	考古・古代・中世	令和９年度刊行
	近世	令和12年度刊行
	近代	令和13年度刊行
	文化遺産 自然・地質　建造物 美術工芸　民俗 地図・絵地図	令和13年度までに順次刊行

6 組織・人員体制

(1) 市史編さん委員会

学識経験を有する6名の委員で構成し、市史編さん実施計画や資料の収集・調査・保存等に関する重要事項について、調査・審議を行います。

舞鶴市市史編さん委員会

役職	氏名	所属・職等
委員長	東　昇	京都府立大学文学部 教授
副委員長	加藤　晃	舞鶴市文化財保護審議会 会長
委員	上杉和央	京都府立大学文学部 准教授
委員	児玉圭司	大阪成蹊大学経営学部 教授
委員	廣瀬邦彦	舞鶴地方史研究会 会長
委員	吉野健一	文化庁文化財第一課 文化財調査官

(2) 市史編さん専門部会

編さん委員会の付属組織として、次の分野ごとにそれぞれ学識経験を有する方で構成する専門部会を設け、主に市史の執筆及びそのための資料の調査、編集等を行います。

① 考古・古代・中世専門部会
② 近世専門部会
③ 近代専門部会
④ 現代専門部会
⑤ 文化遺産専門部会

(3) 市史編さんボランティア

情報のデータベース化等を円滑に推進するため、史料となるデータ収集や整理等、編さん業務をサポートします。

7 市民協働と編さんの周知

市民や地域が市史編さんの取組に参画できる機会を創出・拡大するとともに、より多くの市民に地域の歴史・文化に関心と理解をもっていただくことにより市民協働を推進し、ひいてはふるさと愛の醸成、さらに次世代への継承等に係る人材育成と地域文化の向上につなげていきます。

(1) 資料データの提供のお願い

民間等が所蔵する歴史的文書等を把握するため、情報や資料提供の協力をお願いします。

(2) 編さん情報等の共有

市史編さんの取組状況や市史関係情報について、市民への周知等を図ります。

① 市史編さんだよりの発行
② 地域史講話等の開催

第1回 地域史講話を開催します

日時　令和6年8月31日（土）14時～15時30分
会場　舞鶴西総合会館2階　西公民館201会議室
講師　舞鶴市市史編さん委員会委員長
　　京都府立大学文学部教授　東　昇　氏
演題「身近なことから舞鶴の歴史を考える
　―江戸時代の狐狩・いさざ・看病―」

市史編さんボランティアの活動がスタートしました

5月から、第一・第三の火曜日と水曜日の午前中に西総合会館の2階で活動しています。
現在、ボランティア登録者は15名。引き続き募集しています。

1 古文書（こもんじょ）や歴史資料の整理、写真撮影、目録等を作成します。

2 文書や書籍等資料を複写します。

ボランティアの皆さんの声

素人ながら軽い気持でボランティアに手を挙げましたが、古文書等の一次史料に初めて触れる機会を得て、これを書いた当時の人達の息吹が何となく身近に感じられ、とても貴重な体験となっています。
（Mさん）

全く読めない古文書が、先輩の皆さんに教えてもらって読めるようになると楽しいです。昔の人は、紙を大切にされていたことがわかりました。
（Tさん）

古い資料や写真を探しています！

皆さんの身近にある古い記録類は、地域の歴史を物語る大切な歴史資料です。

ご提供いただきたい資料

- くずした文字で書かれた帳面や、一枚もの和紙文書、巻いた和紙に書かれたなどの古文書や絵図
- 和紙に書かれた冊子などの古い本
- 明治・大正・昭和の古いノートや記録（日記・手紙など）
- 市内の古い写真（人物、風景）、絵画、映像など
- 自治会をはじめ、各種団体、地域活動などの記録や資料、書類
- 古いふすまや屏風（びょうぶ）

（古文書が下張りに使われていることがよくあります）
このような資料（あるいはこれに準ずる資料等）をお持ちの方は、文化振興課市史編さん係（電話 68-9556）までご連絡ください。

「夏の古文書相談会」を開催します

ご提供いただける歴史的資料を含め、古い書類などお持ちでしたら、下記にてご相談ください。

■8月22日（木）　大浦会館
■8月27日（火）　城南会館
■8月29日（木）　加佐公民館
いずれも10時～15時。

舞鶴の記憶[1]

～鉄道・舞鶴線開業120周年～

明治末～大正頃の新舞鶴駅
（現在のJR東舞鶴駅）

駅前には何台もの人力車が並び、白制服の警察官がみえる。名士の来町を待つ町民の姿を撮った貴重な写真です。

ロシアとの関係が悪化するなか、明治34年(1901)10月1日、日本海側で唯一の海軍舞鶴鎮守府が開庁。初代司令長官には東郷平八郎中将が着任しました。翌35年６月には余内村を割いて余部町が置かれ、11月には余部町余部上・同下・長浜、倉橋村北吸・浜・溝尻、志楽村市場・泉源寺(竜宮)の新市街地造成工事が完成します。（新舞鶴町設置は明治39年）

舞鶴には軍人や軍属だけでなく、全国から工廠等で働く工員や、様々な事業・商売等を起業する人々とその家族らが町に移住して、急激に人口が増加したことから産業や商業が盛んになり、軍事物資や兵員だけでなく、一般人や商品を運ぶ鉄道建設の気運が高まりました。

舞鶴と京阪神方面を結ぶ鉄道の建設は、国の直轄事業となり、福知山駅と新舞鶴駅間の舞鶴線建設を突貫工事で進めた結果、明治35年5月の用地買収着手からわずか2年半で完成し、明治37年(1904)11月3日に開通式が行われました。

舞鶴線は、先に大阪方面から福知山まで営業していた阪鶴鉄道株式会社に貸与され、「阪鶴鉄道」と呼ばれました。今年は舞鶴線が開業して120周年にあたります。（市史編さん係Y）

市史編さん日誌

令和5年	
10月５日	舞鶴市市史編さん委員会条例制定
12月17日	第1回編さん委員会開催 （委員長選出と今後の進め方等について協議）
令和6年	
2月12日	第2回編さん委員会開催 （市史編さん実施計画について協議）
3月28日	第3回編さん委員会開催 （市史編さん実施計画について協議）
3月29日	新修・舞鶴市史編さん実施計画策定
4月28日	第4回編さん委員会開催 （専門部会の設置等について協議）
5月７日	市史編さんボランティア活動開始
8月１日	新修・舞鶴市史編さんだより第1号発行

新修・舞鶴市史編さんだより
発行にあたり

舞鶴市長
鴨 田 秋 津

舞鶴市の歩みを記録し、未来へとつないでいくことは、私たちの大きな責務であり、次代を担う子どもたちに本市の歴史・文化を伝え、郷土愛の醸成につなげていくことは、大変重要であると考えております。

こうした思いを持って、新たな舞鶴市史の編さんに取り組んでまいりますので、市民の皆様におかれましても、ぜひ、「新修・舞鶴市史」の編さんにご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

［発行］舞鶴市
生涯学習部文化振興課（市史編さん係）

〒624-0853　舞鶴市字南田辺1番地　舞鶴西総合会館２階
TEL：0773-68-9556　FAX:0773-77-1823
Eメール：history@city.maizuru.lg.jp